平成26年度 新潟市立図書館指標別評価シート

全市立図書館

区分	評価指標	平成24年度	平成25年度	平成26年度	対前年度比			図書館	運営全体	工
	本的サービス(地区図書室分を含む)							自己評価	外部評価	
図書館運営	資料購入費:決算数値(千円)	206,457	159,403	165,171	3. 6%増	め6月1日~7月	20日	修のため1月~8月19日休館,新津図書館が移転のた 休館,石山図書館が耐震工事のため11月~3月25日		・図書館利用を促すための各学校を通した公共図書館の貸出カード作成を呼びかけたのは効果が
	蔵書冊数(点)	1,842,478	1,830,532	1,858,821			前年月	・生徒の図書館利用を促すため、各学校を通して公共 ・作成(利用登録)を呼びかけ、1,520人が登録した。 日書館が、システム統合後の更新時期となったため、登 少したことが影響し全体で5千人減少した。また新規登	1 大変評価する。0%	あった。 ・カードを作ってもらうことも大事だが、図書館の楽しい使い方を教えて来館してもらうことが先なのでは
	貸出冊数(点)	4,723,162	4,599,711	4,579,026	0. 4%減	・小・中学校のり	見童・		2 ある程度評価する。 100%	ないか。・小・中学生への働きかけを一層努力してほしい。
	登録者数(人)	155,642	158,956	153,527	3. 4%減	・豊栄・白根・西録者数が大幅/	川図 こ減り		3 評価できない。0%	・グラフを見る限りあまり大きな変化はない。 ・利用者のニーズに応え、利用拡大を図る企画で
	(内新規登録者数)	17,666	19,666	19,181	2. 5%減	1经安粉14 鱼口	図書	情館が対前年度比で58%減少したため全体で減少し		様々な年代に働きかけている。
区分	評価指標	平成24年度	平成25年度	H26目標値	理由	平成26年度	評点		評価(次年度への展開)	
施	課題解決型図書館							自己評価		外部評価
	レファレンス件数(件)	8,506	12,649	12,650	前年度並	10,273	2	・レファレンス件数は前年度より19%減少した。石山、新津、 坂井輪の臨時休館が影響しているものと思われる。 ・個人の予約件数は、目標は達成したが昨年度に比べてほ	1 大変評価する。22%	・個人の予約件数目標を達成したが昨年に比べると横ばいなのが残念である。
	個人予約件数(件)	675,543	682,593	563,000	教育ビジョン	683,725	4	ぼ横ばいとなっている。オンライン利用が浸透しているもの と考える。	2 ある程度評価する。	予約のオンライン利用は忙しい人にとってとても便利で喜ばれている。・レファレンスは、知識欲だけでなく、生活の安心、
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)		中:	央図書館の数	値		4	※ビジネス支援サービスは中央図書館シートをご覧くださ	78%	快適へも繋がり図書館の役割は大きい。
	ホームページアクセス件数(件)	中央図書館の数値					4	・・。 ※ホームページアクセス件数は、中央図書館シートをご覧く ださい。	3 評価できない。 0%	
	分権型図書館							自己評価		外部評価
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	101,480	105,711	105,800	前年度並	108,583	4	・各区の特色を生かした地域資料の収集に努め、郷土・行政資料の蔵書冊数は2.7%増加した。	1 大変評価する。56%	・各区の郷土資料の収集に期待する。 ・郷土資料発掘,保存,紹介は今後もがんばってほしい。 ・地域資料の収集は,館で差があるように思う。
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	20 102	20.225	20.400	前矢鹿並	40.100		・各区で郷土資料の紹介に努め、全体的に資料の貸出が 減少したにも関わらず、ほぼ昨年度の貸出冊数を維持し た。また、新津図書館の貸出が増加したため、貸出冊数は	2 ある程度評価する。 44%	・各区の特色を活かした収集が重点となっていることは評価できる。その特色を来館者に示す工夫が必要である。
	郷土・1] 収負科の負出冊数(冊)	38,192	39,325	39,400	前年度並	40,109	4	2%増加し、目標を達成した。	3 評価できない。0%	
策	学・社・民融合型図書館					自己評価		外部評価		
事業(オンライン各館)	児童書の貸出冊数(冊)	1,099,169	1,046,422	1,220,000	教育ビジョン	1,051,208	2	・児童書及び小中学生への貸出冊数は、一部の図書館の		・子ども・親子対象の事業の参加者が増えていることに期待が持てる。
	小中学生への貸出冊数(冊)	499,785	472,109	531,000	教育ビジョン	409,759	2	2 休館(石山・新津・坂井輪図書館)に伴い、利用が減少した。 ・職場体験受入人数は、同日の重複申し込みで断った学校 2 もあるが、前年度よりも増加した。 ・「おはなしのじかん」など読み聞かせを定期的に実施したり、読書週間事業を行ったほか、中央図書館で子ども・親子対象事業の「なじらね!この本」や「としょかんクイズ」などを開催し、参加者数は前年度を上回った。	1 大変評価する。22%	・小・中学生への働きかけを一層努力してほしい。 ・子どもに関する取組みが全館とも熱心である。 ・児童への様々な取組みが今日に結び付いている。
	子ども・親子対象事業の参加者数(人)	14,665	16,605	20,900	教育ビジョン	18,151	2		2 ある程度評価する。 78%	・休館があったことだけが原因ととらえてしまうと言い訳ではないか。子どもの数に対して貸出状況を現
	職場体験受入人数(人)	205	213	213	前年度並	259	4		3 評価できない。0%	状より良くすることを考えてほしい。 ・貸出冊数の減は、休館のためやむを得ない。
	講師等としての派遣職員数(人)	344	392	392	前年度並	216	1			
	パートナーシップ型図書館	トナーシップ型図書館								外部評価
	図書館事業のボランティア活動者数(延人数)	3,996	3,904	3,904	前年度並	3,474	2	2 津・坂井輪図書館)の影響もあり減少した。 ──・ 大の会交流会は、白根図書館友の会が主催で行なった。	1 大変評価する。13%	・ボランティア活動者数が減少しているが、歯止めを かけられないか。 ・新しいボランティアが加入する事業を実施してほし
	ボランティア団体交流会参加者数(人)	76	91	91	前年度並	89	2	参加者数は若干減少した。 ・読み聞かせボランティア交流会の参加人数は、昨年度に	2 ある程度評価する。	い。 ・ボランティアや友の会の増加を目指して頑張って
	利用者懇談会の開催回数(回)	0	3	4	対前年度増	4	3	比べ減少した。 ・利用者懇談会を、中央図書館及び黒埼図書館で実施し た	87%	ほしい。 ・地域により対象の重点を変える必要もあるのでは
	共催事業の実施回数(回)	73	67	73	組織目標	78	4	た。 ・中央図書館以外は、子ども関係の事業で共催が多かった。	3 評価できない。0%	ないか。 ・図書館毎でボランティア交流会が開催できないか。
	運営(職員)							自己評価		
	研修参加職員数(延人数)	537	578	570	組織目標	642	4	・公民館と合同の非常勤嘱託新任研修や、県内で開催された専門研修等へ積極的に参加した。また様々な館内研修を実施したことにより、前年度を上回った。	1 大変評価する。78%2 ある程度評価する。 22%3 評価できない。0%	・職員の積極的な研修参加で、上回ったことは喜ばしい。評価できる。 ・職員のレベルアップを願っている。全体的に窓口で 笑顔がもっとほしい。

[※]施策・事業の評点は1:目標値を大きく下回った 2:目標値を少し下回った 3:目標どおり達成 4:目標値を上回って達成 ※教育ビジョン:市教育委員会が策定した指針,新・総合計画:市の目指す都市像に向けた行政計画, 組織目標:市が実施している組織ごとの行政評価